

私たちが考える万博

第1回 万博を考える
その基点にあるもの

万博は記憶でつながっている 議論の出発点

2025年大阪・関西万博を考えるにあたり、これまで1970年に大阪で行われた日本万国博覧会（以下、70年万博）についていろいろな場で議論をしてきましたが、70年万博を過去の遺物と捉えノスタルジーで語る気運があることや、70年万博を実際に経験した人と、していない人との間にギャップがあり、それを埋めるものは何だろうという視点で考えていました。ところが、本誌121号にご登場いただいた大阪発のアート集団COSMIC LAB代表の三浦泰理さんの言葉をきっかけに、意識が大きく変わりました。

三浦さんは70年万博後に生まれた、「70年万博を経験していない世代」です。その彼が娯楽施設「味園ユニバー

をもっと大事にすべきなのではないか、と思うようになりました。

都市戦略としての万博

大阪では70年万博以前にも、明治初期から国内に向けた博覧会が度々開かれています。そこから何が読み取れるかというと、ひとつは博覧会を軸にして大阪市の域域拡張が進められてきた、つまり中長期視点の都市戦略を描き、インフラや交通整備が行われてきたということです。

まず第1次大阪域域拡張後の1903年に第5回内国勸業博覧会が開かれ、翌年の日露戦争から第一次世界大戦までの間、近代工業が大きく発展しました。次に、1925年の第2次大阪域域拡張では都市環境が整備され、日本一の大都市「大大阪」が誕生したことに合わせて大阪記念博覧会が開かれています。このように、博覧会を「都市戦略」の位置づけで考察する視点が重要になってくると思います。もうひとつ、エポックとなる博覧会の開催年に注目すると、1925年の大阪記念博覧会から約50年後の1970年に大阪万博が開催されている。それからさらに約50年後、大阪記念博覧会から数えればちょうど100年後の2025年に大阪・関

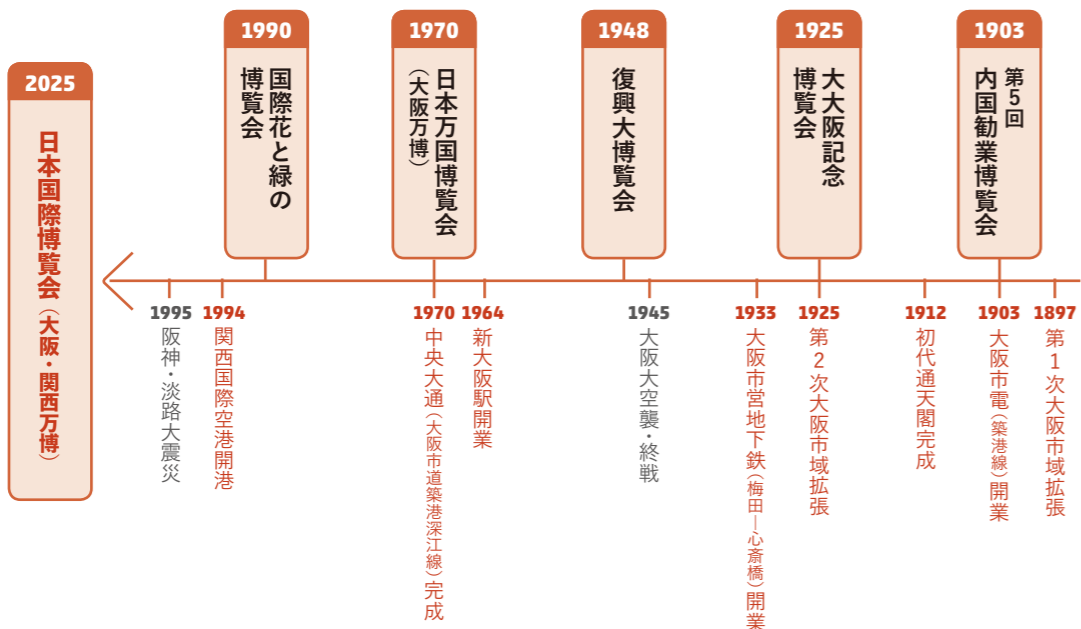
開催を6年後に控えた2025年大阪・関西万博。1970年の大阪万博から55年ぶりの開催となる万博をどう考えていくのか。「万博は半年間だけの瞬間風速的イベントではなく、100年先を見据え、綿密に練られた『都市・産業・文化戦略』として考えるべき」と話すのは、池永寛明大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所顧問。今号より本誌でも万博について多角的に考察していきたい。

構成 加藤しのぶ



ナレッジキャピタルで開催された、第1回「大阪・関西万博会議～ワイガヤサロン～」。万博に向けての世代を超えた議論が期待される。(写真提供/ナレッジキャピタル)

■年表：大阪で開催された主要な博覧会と都市開発



「1970年の大阪万博の頃の空気感のなかで仕事をしたかったから」。そして「大阪万博の時代につくられたものには、外に向かって開かれた独特の感覚があり、このビルにもそういったエネルギーを感じ、それまで日本で感じていた壁をとっぴらった表現が、ここでも可能になるという印象を受けた」というのです。これには非常に衝撃を覚えました。レガシーというか、70年万博とはそういうものだったのかと。

当時生まれていない三浦さんにも、万博は語り継がれている。たとえばお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが話しているのを聴いて、その当時の「熱」を記憶している。実体験の有無とは別に記憶でつながっている——そう考えていくなかで、70年万博以前からの「時間の流れ・変化」

西万博が開催されるという、「時間の流れ」があることに気づきます。博覧会では、殖産興業や教育、消費文化といったことが語られがちですが、実は100年の計で大阪に至る明快なグランドデザインが背景にあったことを、今後CELとしてもきちんと伝えていきたいと思っています。

CELの考察する「大阪・関西万博2025」

これまで本誌で大阪や関西の本質は「混じり合う」ことにあると話してきました。6年後の大阪・関西万博は、奇を衒(て)つても、技術だけでも惹きつけられません。ネットやバーチャルリアリティも当たり前前の時代になっていきます。だからこそ、大阪・関西ならではの強みや必然性を見直していく必要があると思います。そのためのキーワードにも「混じり合う」を提起したい。

先日、ナレッジキャピタルで万博を考察する場のひとつとして「大阪・関西万博会議『ワイガヤサロン』」が立ち上がり、第1回ミーティングを開催しました。ユニークなメンバーが集まっていますから、今後議論がどう動いていくのかも楽しみにしています。情報誌『CEL』でもワイガヤサロンの議論を中心に、多角的に万博を考察していきたいと思っています。



池永寛明
いけなが ひろあき
大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所顧問。1955年、大阪市生まれ。82年大阪ガス入社後、天然ガス転換部にて人事勤務、営業部門にてマーケティングに関わる。日本ガス協会にて企画部長として、エネルギー・環境制度設計対応を担務。大阪ガス入社後、北東部エネルギー営業部長、近畿圏部長を経て2016年に同研究所所長に。2019年より現職。